

令和2年8月4日

保護者・PTAの皆様

岡崎市立羽根小学校長 小田 哲也  
羽根小PTA会長 丸山 和孝

## 児童の家庭でのゲームやスマホアプリ利用、ネット依存等について（依頼）

盛夏の候、日頃は本校教育ならびにPTA活動への御理解と御協力をいただき、誠にありがとうございます。新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休校が長引いたために、夏休み期間が16日間と短縮になりました。このことから、従来の夏休みで実施していた宿題については、各学年・学級で軽減しているところです。

本校の児童に、家に帰ってからの過ごし方を聞くと、「ゲームをする」と答える児童が多くいます。中には「ゲームで課金をする」と答える児童もいます。7月27日から行った保護者会でも、フォートナイトなどのゲームの過激化や課金について、相談を受けています。

こういったゲーム障害（ゲーム依存症）は、世界保健機構（WHO）が2018年に国際疾病分類第11版に追加し、2019年に正式に承認し、2022年から発効される予定の「疾病」です。ネット依存はゲーム依存と同様に深刻で、国内では小児科学会をはじめとして医療機関の多くが問題視をしています。

2017年8月に文部科学省が発表した「全国学力・学習状況調査」では、平日にテレビゲームで1時間以上遊ぶ小中学生の割合は年々増加しており、しかも平日にテレビゲームをする時間が長い子供ほど学力テストの平均正答率が低かったという結果を公表し、その後の調査でも同様の結果を発表しています。また中国西安大学ライフサイエンス研究センターの研究者は、ネット依存者18人を調べたところ、ネット依存の期間が長ければ長いほど、脳の一部の密度が低くなっていたとも報告しています。

学校では、文部科学省の示す学習指導要領からプログラミング学習やタブレット端末やPCを利用しますが、これは論理的思考育成の学習です。ゲーム利用とは、操作過程が異なり、大脳の活性部位も異なります。こういったことから学校では、学習に関わらないゲーム利用、スマホアプリ利用、ネット利用については、一切すすめていません。

つきましては下記の通り、保護者の責任において十分注意をしていただき、利用をしていただきますようお願いいたします。

## 記

## 1 家庭での利用の約束をつくる

## (1) ゲーム利用の約束を決める

- ・単に、1日のゲーム時間を決めるだけでなく、どんなときならやってよいか、どの時間帯ならやってよいかなどを決める。
- ・対象となっていない年齢では、利用しない。

## (2) 子供がしているゲームの内容を保護者も知る

- ・フォートナイトなどのゲーム内容を保護者が知り、他のプレーヤとのやり取りの内容を知ることが大切です。

## 2 その他

- ・お子様のゲーム障害の状態や利用に関わる問題が大きくなる前に、利用制限や中止をしたり、小児科等専門機関に相談したりしていただきますようお願いいたします。

(連絡先：羽根小学校 生活指導担当 内田裕斗 電話51-1795)